神緑会

Shinryokukai News Letter

一般社団法人 神緑会会報誌
神戸大学医学部医学科同窓会

第12巻 第1号

発行日 2020年5月25日

「待春」 宮地 千尋（昭和54年卒）

Contents

令和2年2月1日 一般社団法人神緑会
臨時社員総会報告 3
会長あいさつ 木戸 良明 3
総会 4
新任教授・栄誉者紹介 6
新春学術講演会 8
情報交換会 11
合唱 12
2019年度大倉山祭開催・医療シンポジウム報告 14
2020年１月6日開催 神戸大学医学部白衣授与式報告 17
神緑会員リレー随筆 ① 19
研修医日記 20
神戸大学医学部 部活動紹介リレー 21
研究者だより Vol.1 23
神緑会会員の書籍紹介 25
クラス会便り 27
支部会便り 35
編集後記 42

神戸大学医学部の皆様へ

“安心なお見合い”をするなら
イーガーマリッジへ

親婚活

全国11万人以上の公的証明書提出済の一般会社員・公務員・医師・歯科医師・弁護士・公認会計士・エグゼグティブ・高学歴・高収入の方など、幅広い方が在籍しております。お子様の幸せ、ご家族皆様の幸せの為に、理想の結婚をサポートさせて頂きます。

会員数11万人なので、素敵な方にきっと出逢えます!

《婚活方法には…》

♥エグゼクティブパーティー　♥プロフィールでのご紹介　♥お釣書での個人紹介など

さまざまな幅広い婚活方法をご用意しておりますので、お子様に合った方法で婚活ができます。

写真非公開で活動も可能 / 一般女性の方もご入会可能 / 有資格者のご紹介も可能

イーガーマリッジでは、個人情報の保護を徹底!安心して婚活いただけます。

MCSA（マクサ）マークは信頼の証
MCSA
経済産業大臣認定個人情報保護団体
結婚相談業サポート協会会員

結婚相手紹介サービス 認証事業所
CMS
Certificated Matchmaking Service
認証
192704

経済産業大臣認定個人情報保護団体の結婚相談業サポート協会会員『MCSA（マクサ）・CMS（マル適マーク）』に加盟し、個人情報の保護の強化に努めておりますので安心して婚活ができます。

サロン内は、新型コロナ対策として常時換気中・マスク着用とドアノブ・ソファー・トイレ・ボールペンなど消毒済みです。

毎月限定15名様
90日間 結婚相談所
無料体験プラン
実施中!

《90日間 結婚相談所無料体験プランの流れ》

① まずは下記フリーダイヤルか弊社ホームページにてお問い合わせください。
② 一度ご来社いただき、プロフィール用紙の作成を致します。
③ 店内スタッフによる撮影・画像修正が含まれております。
④ 全国約11万人が登録する中から、お子様に合った方をお探しします。
⑤ 実際にどのような方からお見合いのお申し込みをいただいているかを確認しながら慎重に選びます。
⑥ 素敵な方がいましたら、正会員へご登録いただきますと弊社よりお見合い券を3枚進呈致します。
⑦ お見合いパーティーが1回無料になりますので、たくさんの方と出逢って理想の方を一緒に見つけましょう。

まずは下記フリーダイヤルまたは公式ホームページよりお気軽にお問合せください

イーガーマリッジで一生ものの結婚を

株式会社イーガ・イーガーマリッジ

〒560-0023 豊中市岡上の町3-2-3ナニワビル2F tel.06-6852-1186

0120 FreeDial 0120-223-468

営業時間／11時～19時　定休日／毎水曜日

公式ホームページ
イーガーマリッジ　検索
http://www.kekkon-em.com

令和2年2月1日　一般社団法人神緑会

臨時社員総会報告

令和元年度総会・新春学術講演会令和２年２月１日（土)、シスメックスホールにおいて開催されました。総会は木戸良明会長の開会の挨拶の後、平成31年１月から令和２年１月１日までの神緑会の物故者58名に黙祷をささげ、議事にうつりました。

会長あいさつ

開会のあいさつ

神緑会会長
木戸　良明

一般社団法人神緑会会長の木戸でございます。

定刻となりましたので令和元年度一般社団法人神緑会臨時社員総会並びに新春学術講演会を開始致します。

本日は土曜日の午後の大変お忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございます。

私は、昨年神緑会の会長に就任致しましたが、この１年間の中でもっとも大きなイベントはやはり昨年の９月１日に開催されました神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年記念式典であります。

その準備運営には多くの先生方のご協力を頂き、また式典当日も約1,000名の先生方にご参加いただき盛会の内に会を終えることができました。

改めましてこの場をお借りして御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

また、10月26日にはホームカミングデイが開催され、本日もお越しの福永龍繁先生に特別講演をして頂きました。

これらのイベントの内容につきましてはニュースレターに収録し、なんとか年末には先生方にお届けすることができました。

年があけまして本日私の会長としてははじめての神緑会総会及び講演会を開催させて頂きます。

講演会はプログラムにありますように脳神経内科学分野の新しく教授に就任されました平成６年卒の特別会員であります松本理器先生、神緑会員は非常に多くの女性会員がおられ大変ご活躍されておられますが、その中から製鉄広畑業病院の平成元年卒の大内佐智子先生、そして垂水医師会の副会長であり、神緑会垂水支部長である昭和54年ご卒業の藤井芳夫先生の非常にユニークな取り組みについてお話しを頂きます。先生方にもご興味をもってお聞きいただけると思いますし、私も大変楽しみにしております。

総会、講演会そして懇親会と会員相互に交流しご親睦頂けたらと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

これをもちまして私からの挨拶を終わらせて頂きます。

総会は、令和２年１月11日に開催された評議員会で議長に選出された岩井正秀先生に司会進行をつとめていただきました。

司会（評議員会議長）
岩井　正秀

総　会

開　会

定刻、法人事務局から本日の社員総会は定款第20条に規定する定足数に達している旨の報告に基づき、定款の規定により代表理事木戸良明が議長席につき、本会は適法に成立したので開会する旨を宣した。

議長は、定款第26条第２項に規定する議事録記名人として、出席者の中から、望月眞人正社員、中野康治正社員の２名の指名を行ったうえ、直ちに議事に入った。

議事の経過の要領及びその結果

〔報告事項〕

学術委員会報告について

議長の指名により、当法人の常務理事児玉裕三から、プログラム掲載の資料に基づき「令和２年度一般社団法人神緑会助成事業募集について」並びに「令和２年度一般社団法人神緑会田中千賀子学術奨励賞募集について」に関する説明と報告が行われた。

常務理事
児玉　裕三

広報委員会報告について

議長の指名により、当法人の理事藤岡宏幸（副会長宮地千尋代理）から、名簿、学術誌、ニュースレター発行について今後の方針についての報告が行われた。

理事
藤岡　宏幸

その他の報告について

顧問前田盛から75周年150周年記念事業について募金活動の報告が行われた。

議長より、三三会からの寄付について報告が行われた。

顧問
前田　盛

〔決議事項〕

第１号議案　令和２年度事業計画の承認について

議長の指名により、当法人の副会長竹山宜典から、「令和２年度一般社団法人神緑会事業計画書」に基づき、令和２年度における事業計画について報告と説明があり、その承認を求めたところ、満場異議なくこれを承認した。

副会長
竹山　宜典

第２号議案　令和２年度予算の承認について

議長の指名により、当法人の副会長山崎峰夫から、「令和２年度一般社団法人神緑会予算書」に基づき、令和２年度における正味財産増減予算について報告と説明があり、その承認を求めたところ、満場異議なくこれを承認した。

副会長
山崎　峰夫

議長は、以上をもって本日の議事は終了した旨を述べ、午後３時34分閉会を宣し、解散した。

尚、総会の準備、受付等は、現役の学生さんたちにお手伝いいただき運営しました。

学生さんたちは情報交換会で、神緑会会員たちと交流しました。

※毎年、年２回恒例で、クラス代表を通じてアルバイトを募集しますので、学生さんたちはぜひ参加して下さい。

受　付

（2020. 2月当時）

医学部医学科１年生と３年生が手伝ってくれました

受付風景

左より
司会（評議員会議長）：岩井　正秀／会長、議長：木戸　良明
副会長：竹山　宜典／副会長：山崎　峰夫
副会長（代理）：藤岡　宏幸／常務理事：児玉　裕三

新任教授・栄誉者紹介

総会終了後、新任教授のご紹介を児玉常務理事が行い、栄誉者については、竹山宜典副会長が紹介を行った。

なお、2019年度の新任教授、栄誉者表彰対象者は総勢28名となった。当日は公務等の事情があり、12名はご欠席となったが、後日祝意として、全員に記念品を贈る旨、会長より報告しました。

（学術誌の原稿依頼と合せて送る予定です。）

【神戸大学医学部長　研究科長・教授就任】

神戸大学医学部長	藤澤　正人	昭和59年
神戸大学医学部保健学科長・保健学研究科長	安田　尚史	平成03年
神戸大学医学部附属病院　救命救急センター　センター長	小谷　穣治	正会員イ
生理学・細胞生物学講座生理学分野　教授	内匠　　透	特別会員
外科系講座口腔外科分野　教授	明石　昌也	特別会員
内科系講座放射線診断学分野放射線医工学部門　特命教授	堀　　雅敏	特別会員
神戸大学医学部保健学研究科　パブリックヘルス地域保健学分野　教授	西村　範行	平成01年
地域社会医学・健康科学講座　地域医療ネットワーク学分野　特命教授	上田　佳秀	平成06年
病理ネットワーク学部門　特命教授	児玉　良典	平成07年
神戸大学医学部附属病院　医療の質・安全管理部　特命教授	小林　和幸	平成09年

【神戸大学外学長・教授 就任】

国立大学法人　鹿児島大学長	佐野　　輝	昭和56年
兵庫医療大学　学長	藤岡　宏幸	昭和63年
横浜市立大学　精神医学部門　主任教授	菱本　明豊	平成08年
独協医科大学病院放射線治療センター　教授	江島　泰生	平成09年
慶應義塾大学　看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科　教授	杉山　大典	平成15年

【所長・病院長】

警察庁　科学警察研究所　所長	福永　龍繁	昭和56年
東京都中央区保健所長	山本　光昭	昭和59年
製鉄記念広畑病院　病院長	木下　芳一	昭和55年
神戸市立　西神戸医療センター　院長	竹内　康人	昭和56年
神戸医療センター　院長	宇野　耕吉	昭和59年
三菱神戸病院　院長	松本　　健	昭和60年

【栄　誉　者】

瑞宝中授章	谷山　紘太郎	昭和42年
旭日中綬章（平成30年春）	小泉　直子	昭和43年
瑞宝小綬章	後藤　　武	昭和43年
瑞宝双光章	谷風　三郎	昭和45年
兵庫県スポーツ賞	河村　剛史	昭和47年
兵庫県科学賞	的崎　　尚	昭和56年
松岡良明賞	平塚　純一	昭和56年

当日ご出席いただいた新任教授・栄誉者の先生方

■ 新任教授（神戸大学医学部長　研究科長　教授就任）

小谷　穣治
（昭和62年卒　正会員イ）

内匠　透
（昭和61年卒　特別会員）

明石　昌也
（平成16年卒　特別会員）

堀　雅敏
（平成5年卒　特別会員）

西村　範行
（平成元年）

上田　佳秀
（平成6年）

小林　和幸
（平成9年）

■ 所長・病院長

福永　龍繁
（昭和56年）

木下　芳一
（昭和55年）

竹内　康人
（昭和56年）

松本　健
（昭和60年）

■ 新任教授（神戸大学外学長・教授　就任）

藤岡　宏幸
（昭和63年）

菱本　明豊
（平成8年）

■ 栄誉者

小泉　直子
（昭和43年）

的崎　尚
（昭和56年）

平塚　純一
（昭和56年）

三三会からのご寄付

報告
三三会よりご寄付をいただきました。

昭和33年卒クラス代表評議員の新谷先生より三三会解散に伴い185,267円の寄付をいただきました。三三会の先生方には、理事会より感謝の意としてペナントと感謝状を贈呈することになりました。心よりお礼申し上げます。

新春学術講演会

■ 講演 Ⅰ

松本　理器（特別会員）神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 脳神経内科学分野 教授

演題『臨床システム神経科学による脳病態の解明』

脳神経内科では、大脳から末梢神経・筋までシステムとして機能する神経系を対象とする。なかんずく高次脳機能は、決して単一領域のみで発現されず、複数の領域がネットワークを形成してシステムとして機能が発現される。脳病態も同様であり、例えばてんかんの発作時症候は神経の過剰興奮が大脳ネットワークを通じてダイナミックに出現し、正常の皮質機能および皮質間ネットワークと表裏一体である。本講演の前半では、てんかん・認知症などで注目される前側頭葉と意味記憶との関連について、脳情報解読技術などシステム神経科学の手法を用いて最近の知見を紹介する。世界随一の超高齢社会である日本では、てんかん発作を起こす高齢発症の患者が増え（有病率１％超）、自動車事故などが社会問題化している。講演の後半では、高齢発症てんかんのトピックスとして、自己免疫介在性てんかんやアルツハイマー病初期のシナプス病態を反映して発症するてんかんについて紹介する。

座長感想

座長：児玉常務理事

てんかんという病気を中心に、さまざまな新しい病態や脳機能の解明に向けてご尽力されている様子がとてもよくわかりました。また非常に短期間で良いチーム作りをされていて、保健学科や脳神経外科などとのコミュニケーションを含め、若い人が集まる医局を作られていることに感銘を受けました。

■ 講演 Ⅱ

大内　佐智子（平成元年卒）製鉄記念広畑病院 内科・消化器内科 部長

演題『医師の働き方改革　～ダイバーシティを受け入れる～』

労働力不足を解消するため、「長時間労働の是正」、「正規・非正規の不合理な処遇差の解消」、「多様な働き方の実現」の３つを柱とした、働き方改革関連法が2019年４月から施行され、多様な働き方を可能にする社会を目指す政策が策定された。

人手不足の医療の現場では長時間労働の是正を行うには３倍くらいの人員の増員が必要になるといわれている。増員できない中で働き方改革を推進するには、他の職種同様に多様な働き方を受け入れていかなければならない。妻が専業主婦であるかつての猛烈サラリーマンのような画一的な働き方をする猛烈医師、以外の働き方をする医師（大部分は家庭を持つ女性医師ということになるが）を受け入れるということに代表される、ダイバーシティを受け入れることは医療の現場では経験のないことである。長い間、目を背けてみないふりをしていた、そこに目を向けないといけない時代が来た、と言っても過言ではない。

医師の働き方改革を模索し、奮闘している市中病院の立場からダイバーシティを受け入れる課題につき考えてみた。

座長感想

座長：中村理事

ご自身のキャリアのお話しと現在進めている働き方改革やそれに対する問題点をクリアにお話し頂きました。医師の働き方改革は我々としても取り組んでいるところです。また、女性の家事問題については男性医師の意志改革が進まないといけない。というメッセージも頂きました。最後に、大内先生の手腕を発揮しより良い新しい医療センターを作って頂けることを祈念しております。

■ 講演Ⅲ

藤井　芳夫（昭和54年卒）医療法人社団藤井内科クリニック 院長

演題『医者からみた「ミツバチ」の話』

高齢者の食べる楽しみについて考えたい。

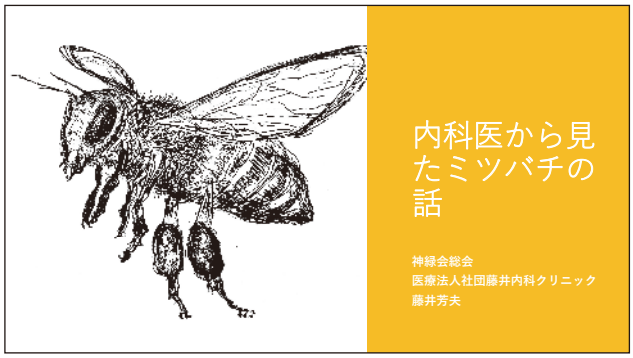
私は垂水区で有料老人ホームの運営にも携わっているが、実は屋上でミツバチを飼っている。そのハチミツを一口食べると派手な味ではないが子どものころに食べたあの何とも言えない甘さと独特の風味が蘇って来る。ハチミツは入居者のために作っており、朝食やおやつに利用しているのだが、ターミナルになって食事を受け付けなくなった人が温かいハチミツ水だけは飲んでくれたことは、感慨深いものがあった。

さて私がなぜミツバチを飼いだしたか？それはある雑誌で銀座のミツバチについての記事を読んだのがきっかけである。有料老人ホームの朝食のパンに付けて食べてもらいたいと思った。しかしどうして良いのか分らない。妻は猛反対で入居者さんが刺されたらど

うするの？買った方が安いわよとくる。当時NHKの朝ドラで「ゲゲゲの女房」が放映されそのお兄さんが養蜂をしていてミツバチのことを話し出すと止まらないということを聞いた。

さっそくミツバチ談義を聞きに行く事となった。安来市は神戸から約３時間、アポなしで尋ねたがミツバチのことを詳しく教えていただいた。紹介してくれた養蜂家はなんと神戸の阪神御影にある俵養蜂所であった。俵養蜂所の社長は全国でミツバチの病気を診れるたった３人の獣医のひとりであった。

ミツバチをなぜ獣医がと思ったがミツバチは家畜であるため獣医が診るとのことであった。感染症やダニなどの寄生虫が主な疾患である。続きは当日で。



座長感想

座長：大林理事

お忙しい開業医としてのお仕事そして、有料老人ホームの経営も大変だと思いますが、楽しいお話を聴かせて頂きました。ありがとうございました。藤井先生はバドミントン部だったのでスズメバチがとんできても撃退はお得意ですよね。色々な学問的なことも含めて教えて頂きありがとうございました。藤井先生が2016年８月から2017年７月まで１年間執筆された雑誌“KOBECCO”の連載についてネットで調べて頂ければバックナンバーで読むことができます。

理事　岡村　雅雄

閉　会

令和２年新春学術講演会は、岡村雅雄理事（大阪神緑会　会長）の閉会の挨拶で締めくくられ、神緑会館多目的ホールで行われる情報交換会へ移動しました。

情報交換会

会長あいさつ

乾杯
顧問　望月　眞人

合　　唱

神緑会混声合唱団の歌声を聞いて

司　会
川合　宏哉
(昭和61年卒)

情報交換会では神緑会混声合唱団の素晴らしいハーモニーを聴かせていただきました。この合唱団は平成30年に結成され、現在は約20人のメンバーで活動されています。神戸大学における合唱団の歴史は古く、開学（大学設立）から間もなく神戸医大男声合唱団が結成されましたが国立移管とともに活動停止となり、次に神緑会男声合唱団が昭和61年ごろに再開されましたが再び平成28年ごろに活動停止となっています。その合唱団の元メンバーの中から合唱団を引き継ぎたいという思いから再結成された、とのお話しです。２月１日のご講演では３曲をご披露いただきました。その中の１曲は合唱団の一員である黒原みどり先生が作詞作曲され、医学部教授会で神戸大学医学部学歌として承認された曲であり、ご披露いただきましたのも初めてとのことでした。神緑会館に響き渡る素晴らしい歌声をお聴かせいただきました合唱団の方々に、参加した神緑会員も大きな拍手を送りました。これからも医学部学歌を広めていただき、そして神緑会混声合唱団として永らく活動いただきますよう、お願いいたします。

当日の参加者

卒年	氏　名	職　　場
S37	中村　寿美男	
S38	和田　勇	和田内科院長
S49	大橋　正伸	なでしこレディースホスピタル院長
S58	服部　かおる	フラワーロード服部内科
S63	出射　由香	神戸労災病院病理部門
H2	小松　邦志	こひつじクリニック院長
H4	野中　顕子	兵庫県立がんセンター循環器内科
H5	濱田　英之輔	アーティスクリニック
H5	杉本　健	北播磨医療センター
H5	為金　現	兵庫県立尼崎医療センター
H6	梶本　和義 マネージャー	兵庫県立がんセンター病理診断科
H11	黒原　みどり	大澤病院糖尿病内科
H19	西尾　真理	神戸大学病理学講座
学生	小菅　あかり	学生１回生

合唱の様子

学歌作詞・作曲
黒原　みどり

当日披露された曲名

１曲目　神戸医大男声合唱団の団歌
２曲目　神戸大学医学部学歌
３曲目　The Song of the Soldiers

歓談の様子

理事　大西　祥男

閉　会

情報交換会は神緑会会員と、お手伝いいただいた多くの学生さんたちが交流し、盛会の中、大西祥男理事（加古川中央市民病院理事長・院長）に閉会の挨拶をしていただきました。大変有意義な情報交換会となりました。

次回の定時社員総会について

新型コロナウィルス感染症COVID-19の影響により開催について検討中です。

2019年度大倉山祭開催報告

令和元年度大倉山祭実行委員会実行委員長　**弓場　健太郎**（医学部医学科４回生）

令和元年度も無事大倉山祭を開催することができました。私ども令和元年度大倉山祭実行委員の熱い気持ちが伝わっていればなぁと思います。また、御報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。

私ども令和元年度大倉山祭実行委員会は本年度の大倉山祭テーマをQueenの名曲になぞらえて「Don't Stop Kobe Now ~令和初の青春祭~」と定め、ご来場いただいた方々に私どもの若々しいエナジーをお届けしたいと全力で取り組んでまいりました。お忙しい中お越しくださった先輩の皆様、誠にありがとうございました。私どもの文化祭はいかがでしたでしょうか。

令和初の大倉山祭は10月６日のスポーツ大会から始まりました。本年度も六甲の国文グラウンドをお借りしてソフトボール大会を開催いたしました。ソフトボールと寝食を共にするレベルの方もそうでない方もたくさんの学部生が参加しチームを組んで優勝を目指して熱い試合を繰り広げました。

本祭の前日、11月16日には地域の方々にもご聴講いただける、無料市民公開講座として医療シンポジウムを神緑会館の多目的ホールにて開催いたしました。詳細については後のページにて医療シンポジウムチーフがご紹介させていただいておりますが、本年度も多くの市民の方々がお越しになられました。「働く人のメンタルヘルス~臨床と研究のいま~」というテーマのもと、学部生１名と医学研究科精神医学分野の先生方２名にご登壇いただきました。多目的ホール入り口にて東洋医学研究会によるパネル展示も同時に行われ、地域の方々に医学をもっと身近に感じてもらえる素晴らしい機会を提供することができたと思います。

そして11月17日、本年度も天候に恵まれ青空の下大倉山祭本祭を開催することができました。私ども令和元年度実行委員会も先代に負けない大倉山祭を！と大倉山公園にありったけの情熱・工夫を敷き詰めました。その甲斐もあってか、本年度も見事に大盛況となり、実行委員長としてホクホクが止まりませんでした。

昨年度と大きく変わったのはステージ企画で、軽音部とクラシック愛好会による合同大所帯バンド企画をピースプロジェクトとして正式に復活しました。私も軽音部とクラシック愛好会の両方に属す身としてキーボード・ピアノ・トランペットで参戦いたしましたが、

晴天の野外で楽器をかき鳴らすというのはやはり最高に滾りました。男子企画は昨年度は女性を口説く上手さを競うものでしたが、本年度は男子企画はやはりこうであるべきであろうということで、王道の男の娘選手権とし、いかに美しい女に扮することができるかを競うスタイルに戻しました。本当にかわいい乙男からエイリアン級まで各部活から様々な男の娘たちが出場し場を盛大に盛り上げてくれました。男子企画だけでなく、模擬店の売り上げをかけた定番の女子企画である看板娘企画も昨年度と同じく大変盛り上がりを見せていました。また、本年度は新たに発足した医学科ダンスサークルによるダンスショーも大きな見どころでした。さすがはダンスを専門にしている団体で、素人目に見てもキレッキレの圧巻のパフォーマンスでした。吉本興業から芸人さんをお招きしてネタを披露していただく吉本お笑いライブは、やはり人を笑わせることで食べている人たちなだけあり、さすがの一言に尽きました。

サイドステージ企画はクラシックギターやサックスのミニライブやBMX(自転車競技)のほか昨年度より続投のフラッシュモブに加えクリスタルキングカラオケデュオなど、本年度もアクが強いまでに個性豊かなパフォーマンスが繰り広げられました。クラシックギターの甘美な音色に酔いしれていたら今度はどこからともなく大都会が聴こえてきたり、自転車のアクロバットなワザに感嘆していると突然人々が踊りだすなど、まさにカオスでしたがどの企画も多くの人々を惹きつけて離さない素晴らしいものでした。

模擬店の店舗数は昨年度よりもさらに多くなり、B1グランプリ優勝をかけた競争もいっそう白熱していました。一昨年より始まった、神戸大学生活協同組合の方々と実行委員会による共同ブース「出張！六甲健康ランド」は本年度もたくさんの方々がお越しになり、定番企画となりつつあります。体脂肪・骨密度・肌年齢の測定や栄養士との食生活についての相談などを通してお越しいただいた方々に自身の健康を振り返る機会を提供することを目的としたこの企画は、医学科の文化祭にふさわしい企画として今後も大倉山祭の大事な一翼を担うものになると思われます。また、本年度も実行委員会運営のブースとして委員ブースを設けました。手作りフロランタンの販売やスーパーボールすくい、本学への進学を考えている方々向けの受験生お悩み相談コーナー、タロットカードや手相を用いた本格的な占いなど、私ども実行委員も競合他模擬店に負けじと趣向を凝らしたブースを展開しました。

令和元年度の大倉山祭も協賛企業の方々や神戸市職員の方々、そして神緑会の先輩方から暖かいご理解、ご支援を賜った結果無事に大盛況のうちに終えることができました。私どもに大変貴重な機会を与えてくださったすべての方々に心より感謝と御礼を申し上げます。令和二年度大倉山祭もさらに進化した文化祭を目指して私どもの後輩たちが頑張ってくれることと思われます。私どもも彼らのサポートをしていきます。皆様におかれましてもどうか引き続き我々学生へご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。ニュースレターのページをお借りいたしまして、令和元年度大倉山祭のご報告ならびに御礼のあいさつとさせていただきます。

大倉山祭報告（医療シンポジウム）

「大倉山祭医療シンポジウム」を開催しました

大倉山祭医療シンポジウム実行委員長
勝本　花衣（医学部医学科４回生）

令和元年11月16日(土)、神緑会館にて市民公開講座、神戸大学医学部大倉山祭医療シンポジウムを開催しました。「働く人のメンタルヘルス ～臨床と研究のいま～」をテーマに、地域の皆様や学生とともにうつ病や自殺について様々な観点から学びました。

講師として、神戸大学大学院医学研究科精神医学分野の准教授である菱本明豊先生と同分野の講師である朴秀賢先生をお招きいたしました。菱本先生は自殺やうつ病について遺伝学的観点から、朴先生はストレスとうつ病について神経細胞の観点からご講演くださいました。また、学生発表として石川和綺子さん（２回生）が免疫系の老化についての研究成果を報告し、東洋医学研究会による「睡眠と漢方」ついての展示も行われました。

皆様のご協力のおかげで、参加者92人の盛会となりました。働く人のメンタルヘルスというテーマに興味を持った地域の方々がたくさん来場してくださいました。講演は普段話題に上がりにくい「うつ病・自殺」について考え、学ぶ非常に有意義な時間となりました。参加者の皆様から「臨床研究の面白さと重要性を感じた」「大変興味深い内容だった」「中身の濃いシンポジウムだった」など温かいお言葉をたくさんいただき嬉しく思います。

また、先生から学生にご自身の留学についてのお話があり、学生の参加者からの「留学に対する前向きな意識がわいた」という声もありました。

末筆ではございますが、本シンポジウム開催にあたりご尽力くださいました多くの方々に感謝申し上げます。特に菱本先生、朴先生にはご講演をお願いしたところ、大変お忙しい中快くお引き受けいただきました。ありがとうございます。またご支援いただきました、神緑会、兵庫県医師会、神戸市医師会の皆様に感謝申し上げます。

大倉山祭医療シンポジウムは毎年大倉山祭の一環として行われています。次の開催は2020年11月頃を予定していますので、是非たくさんの方々に参加していただき、医学についての知識を深め新しい発見を共有していけたらと思います。

石川先生

菱本先生

医療シンポジウムチーフ勝本さんと
演者　朴　秀賢先生

2020年1月6日開催 神戸大学医学部白衣授与式報告

髙木　望夢（医学部医学科５回生）

時間の流れははやいもので、この感想を書いている日はBSLが始まって一ヶ月が経とうとしている日です。少しは生活に慣れて来ましたが、慣れてはいけないなと思うことが一つあります。病院内を白衣やスクラブを着て歩いていると周りからは医師にしか見えません。そのためエレベーター付近や病棟ですれ違った場合に患者の皆さんから会釈をされることがよくあります。私はこの「会釈」をされる度に身の引き締まる感覚を覚えるのです。この感覚に慣れてしまうと生活に張りがなくなる気がしているので最後まで忘れないように努めます。加えて、日頃からStudent Doctorとして身なりや態度、言動に注意し勉学にも一層励まなければならないという意識も大切だと考えています。

BSLではこれまで文字でしか理解してこなかった病気を実際の患者さんを前にして更に学びを深めることが出来ます。やはり実際に目にすると、テキストには書いていなかったことが多く、疑問が次から次へと湧いてきて日々新鮮です。一番重要なことは患者さんの心情に触れることができることです。病気に対してどう接してきたのか、これからどう生きるのか。患者さんは年配の方が多く、そういった観点でも多く学ばせて頂いています。

さて、式に先立って学年全体で宣誓文を作成しました。宣誓文には努力と初心、笑顔を欠かさないことを盛り込みましたが、さらに付け加えて実習を受けてくださり多くの学びをもたらして下さる患者さんへの感謝も忘れずにこれからのBSLも過ごしていきます。

そして、迎えた白衣授与式では先生方に一人一人白衣を着せて頂き、お言葉を頂きました。

儀式というものははるか昔から人々の暮らしの中で繰り返し行われてきました。その理由を、儀式が人の一生の中でとても重要な心の区切りを作ってくれるからだと私は考えます。頭では分かっているつもりでも、普段の振る舞い・生活に反映されないことは多いです。そんなときに体を使って参加してはっきりと自分に分からせてくれるのが儀式の持つ素晴らしいパワーではないでしょうか。

白衣授与式という儀式を通して、「これから医師になっていくのだ」と刻みこむことができたのは本当に有意義でありがたいものだと考えています。このような素晴らしい機会を設けてくださった神緑会の皆様、先生方、事務の方々に心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

神緑会より白衣119着を寄贈しました。

河野　太郎（医学部医学科５回生）

私が入学したころは「病院の実習なんてまだまだ先の話だなぁ」などと思っていたものですが、医学部での４年間もあっという間に過ぎ、いよいよBSLが始まりました。

我々が病院の中で患者さんの前に出向く時には必ず名札を付けることになっています。そこにはStudent Doctorという肩書が書かれています。直訳すれば『学生医師』です。医師と学生の間の期間という事ではありますが、それでも患者さんから見れば本当の先生と見られる事も多いとは思います。常日頃の態度や姿勢に気を付けて、より実習を有意義なものにしなければならないと思わされるばかりです。

年が明けて早々、我々は白衣式を迎えました。これから病院で実習を始め、医師への一歩を踏み出すにあたり、その決意・覚悟を明らかにする機会を設けていただいたことを大変ありがたく思うとともに、医療人としての自覚をまた一層引き締められた思いであります。先生に着せていただいた白衣はその重量としては軽く、その重みは計り知れないものであるとの感想が、私にとっては一番しっくりくるものでした。

さて因果なもので、私はこの神戸大学医学部とは縁の深い人間であると思っています。父が神戸大学医学部卒業であり、母方の祖父は県立神戸医科大学の卒業であります。つまり父と祖父は私の先輩です。親子３代、この地で医学を学べるのは幸せなことであると常々思います。

先日のことですが、神緑会の前会長であります前田盛先生と神戸大学医学部の歴史についてお話する機会をいただきました。県立神戸病院から現在に至る歴史について教えていただきました。150年にも及ぶ病院の歴史の大きさを痛感するとともに、この尊い歴史を後世まで引き継ぐのは、自分たちのような次に医師へと育っていく世代であると再認識しました。白衣式とは、医師としての責任のみならず、この神戸大学医学部の歴史をも背負う儀式であるのだな、と今更ながらに思います。

父や祖父をはじめとする歴代の先輩方もこの場で医学を学び、白衣を授かり、医師への道を踏み出したのだろうかと思うと、私もこの白衣の重みにふさわしい医師になるよう、また、先輩である父や祖父に負けないくらい立派な医師になるべく、これからも努力し続けねばならないと考えさせられます。

白衣式はそういった事を改めて確認し、新たな一歩を踏み出す素晴らしい機会となったと思います。このような式を開催してくださった先生方、事務の皆様、そして神緑会の先輩方には、心より御礼申し上げます。この度は本当にありがとうございました。

多くの保護者にもご参加いただきました

NEW 神緑会員リレー随筆 ①

著者
徳田　好勇（昭和58年卒　大阪支部）

昭和58年卒業の徳田好勇です。平成９年に父親の内科診療所を継承、現在は浪速区医師会に所属しています。今回は浪速区医師会が行っている事業（ブルーカード・Ａケアカード）を紹介させていただきます。

ブルーカードは病院と診療所を繋ぐ、病診連携のシステムです。診療所から病院に紹介する際は、診療情報提供書を作成します。しかし休日や夜間・時間外など、対応できない場合もあります。このシステムでは患者・家族の了解をとり、事前に医療情報をFAXで登録病院に送り登録します。発熱など時間外受診が必要な場合、患者・家族が直接病院に連絡をとり受診します。搬送先病院を確定できるため、救急隊は探す手間がなく、搬送時間を短縮できます。病院医師は既往歴などの情報を知ることができ、診療時間を短縮できます。利用状況調査を行いましたが、登録時に十分な説明を行っているので、不要不急の受診は増加していませんでした。ブルーカードはFAXのみで運用が可能であり、初期費用がかからないのが最大の利点です。残念ながら現時点では、健康保険請求はできません。

Aケアカードは医療と介護などを繋ぐ、多職種連携のためのシステムです。介護事業者と医療機関が連絡をとる方法は、訪問・電話・FAXなどがあります。しかし、お互いに忙しいため、頻回の連絡は難しい状況にあります。また多くの場合、一人の患者･利用者に、医療・介護・福祉・行政など複数が関わっています。患者・家族の了解をとり、医療・介護情報をサーバーに登録しておけば、PC・タブレット・スマートフォンを利用した情報共有が可能となります。またチャット・メール機能により、複数間で連絡をとり合う事もできます。VPN等で接続することにより、セキュリティーも確保しました。問題となる点としては、システム構築・維持に資金が必要な事、コンピューター設定・操作に知識が必要な事などがあげられます。

円滑な運用には意思疎通が重要です。ブルーカードでは、診療所･病院が定期的に浪速区医師会に集まり、病診連携委員会を開催しています。Ａケアカードでは、診療所・病院・歯科診療所・調剤薬局・訪問看護ステーション・介護支援事業所・地域包括支援センター・区役所・在宅医療介護連携相談支援室が在宅連携協議会を開催しています。

浪速区医師会はブルーカード・Ａケアカードに関して、大阪府医師会医学会総会などで発表していますので、ご存知の方もいらっしゃると思います。興味をお持ちの方は、浪速区医師会までご連絡下さい。システムに関する質問・導入に関する相談に応じますので、よろしくお願いします。

総合臨床教育センター特定助教／糖尿病内分泌内科　**木村　真希**（平成15年卒）**よりバトンタッチ**

研修医日記

初期研修医　**小坂　優実**（平成30年卒）

前号の木村先生によるプロローグに続き、今号の研修医日記を担当させていただきます。この原稿を書かせて頂いているのが研修終了間際であるため、今回は２年間の振り返りをさせて頂けたらと思います。

令和元年度の研修医は１年目一般コース17名、２年目一般コース22名、たすきがけコース39名が在籍しております。私はたすきがけコースであるため、１年目は市中病院、２年目は大学病院で研修を致しました。

１年目の市中病院では、内科・外科・麻酔科・救急科など様々な科でローテートをし、Common diseaseや救急当直・病棟当直を経験しました。指導医の数は大学に比べると少なかったものの、各科の垣根が低く、ローテートをしていない科の先生にも困ったことがあったらすぐに相談することができました。また、初期研修医の数が少なかったので同期との仲も良く、仕事上の関係だけではなく全員で食事に行ったり旅行に行ったりすることができました。

２年目の大学病院ではローテート科を自分の希望に合わせて自由に組めたので、志望している科やそれに関連した科でローテートをしました。大学病院で診る疾患は専門的なものが多く、疾患自体を理解することすら困難で苦しんだことも多々ありましたが指導医の先生方のご指導により少しずつ理解を深めることができました。また、毎週開催される研修医ミーティングでは様々な科の先生がレクチャーをして下さることで、幅広い知識を身に着けることができました。研修医の同期は約60名と多いため全員と親しくなることはできませんでしたが、人数が多い分それぞれが様々な科を志望していて切磋琢磨することができました。大学病院の研修医室は個人の机はなく、２部屋に分かれており、それぞれが思い思いに過ごすことができます。パソコンが置かれている部屋ではカルテをみたり、文献を読んで勉強したりしています。ソファやテレビが置かれている部屋では昼休憩に研修医が集まってみんなで食事をとったり、終業後に１日の出来事を共有したりしています。正直に申しますと、大学病院に来るまでは「自分の机がなかったら居場所がなくならないかな。」と不安に思っていましたが、個人の机がないことでそのとき隣に座っていた人と交流できたり情報を共有したりすることができました。

研修医生活は慣れないことも多く辛いことも多々ありましたが、その分出来ることが増えた時の喜びも大きかったです。周りの同期、指導医の先生方、病院のスタッフの方のおかげだと思います。この２年間の経験を糧に今後も精進してまいりたいと思います。

研修医同期と（一番左が筆者）

研修医室

新企画!!

神戸大学医学部 部活紹介リレー

こんにちは、バドミントン部です

バドミントン部　前部長　**福本　圭輔**（医学部医学科４回生）

こんにちは。バドミントン部です。この度はバドミントン部が、新企画である部活紹介の第一弾に選ばれたことを大変嬉しく思います。謹んで紹介させていただけます。

まずは簡単に活動内容を紹介します。１．２．３回生が中心となり、火曜日、木曜日に全体練習、日曜日に自主練をしています。医学科の学生だけでなく、保健学科の学生も一緒に活動していて、全体の部員数は約60人ほどの大所帯となっています。

僕たち部活のモットーは、〝大会で結果を出しつつ、部員ひとりひとりの居場所となれるチームを作ること〟です。年に大きな大会が３つあり、そのうち２つは校内順位に関わらず全員が出場できるものなのですが、全員が出られるからこそ、〝一丸となって〟互いに応援しあえるのです。そしてそんなチームを作ることを目標の一つとして活動してきました。個人競技なので、各々が自身の成長に努めながら、互いに高め合い、応援し合うことができる部活です。

次に、ここ最近の大会の結果を一部ながら紹介させていただきます。昨年の夏の西日本規模の大会では、牧野涼馬が４回戦まで勝ち上がる好成績を残し、富永祥子・石原幹梧ペアがベスト16となりました。秋の団体戦では一昨年度１部リーグに昇格し、昨年度１部に残留することができました。冬の新人戦では河合龍一・片山貴登ペアがベスト４に輝き、春の近畿東海圏の大会では新宮資央・上田健斗が５回戦まで勝ち上がり、松山義直がベスト８に輝きました。今挙げた中には大学からバドミントンを始めた者も数多くいますが、各々が努力し、たくさんの好成績を残しています。

また、バドミントン部はオンとオフの切り替えがしっかりしています。練習や大会はもちろん一生懸命、遊ぶときも全力で遊びます。バドミントン部のメンバーはみんなとても仲が良く、休日に数人で遊びに行くだけでなく、夏には有志でBBQをしたり古民家に泊まりに行ったり、冬にはスノーボードに行ったりクリスマスを祝ったりしています。大会後には観光がありますが、大会は西日本各地で行われるので、６年間で西日本制覇することも可能かもしれません(笑)僕自身、各学年の各シーズンに忘れられない思い出がたくさんできました。オンにもオフにも手を抜かないからこそ、バドミントン部は大学生活を充実させてくれるのだと思います。

でも、今こうしてバドミントン部として僕たちが活動できているのは、支えてくれる先生方や、卒業生のOBの皆さんのお力に他なりません。顧問である勝二郁夫先生を始め、的崎尚先生、味木徹夫先生、堀裕一先生、出水祐介先生などたくさんの先生方にお力添えをいただいております。

特に、的崎先生や勝二先生には僕たちが１、２回生のときに講義をしていただいたこともあり、そちらの面でも大変お世話になりました。お二人の試験は難しかったように記憶しています。新歓コンパや忘年会などセレモニーの際に先生とお話しさせていただくと、今も昔もこの部活が部員にとっていい居場所であることに変わりないことを実感します。

また、先年お亡くなりになられた前顧問の三戸壽先生は晩年までOBバドミントン大会にも参加されるほど親密に関わっていただいておりました。今のバドミントン部があるのは、先生のお力によるところが大変大きいと思われます。先生には、この場を借りてご冥福をお祈りします。

これまでお世話になった先生方、これからお世話になる先生方の期待に恥じないように部員一同精進していくつもりです。今後ともよろしくお願いいたします。

そして、これまで１年間主体となって共に部活を運営してきた部員のみんなにも感謝を伝えたいです。無理を要求したり、伝え方を誤り、迷惑や不満を感じさせることも多かったと思います。部員や同回生にとって居心地のいい部活にするために努めてきたつもりでしたが、自分の未熟さに悩むこともかなり多くありました。それに気付いて声をかけてくれたり、しっかりと意見をぶつけてきてくれたり、我慢してついてきてくれたみんなのおかげで、諦めずに１年間やってこれたと感じています。特に、同回生のみなさんはこれまで本当にありがとうございました。

さて、新入生のみなさん、合格おめでとうございます。神戸大学には素晴らしい部がたくさんあるので、しっかり悩んで自分に合う部を見つけてください。バドミントン部は、初心者も経験者も大歓迎です。バドミントンをあまり知らない人にとっては意外と本格的なスポーツだと驚かれると思います。ぜひ一度見に来てください！オンとオフを両方充実させたい人はおすすめです！マネージャーも募集しています。それでは、楽しい大学生活をお過ごしください。

神戸大学に関わる全ての皆様のご活躍をお祈りしています。

次号は、男子バレーボール部です。

NEW 研究者だより　Vol.1

ボストン留学記

神戸大学医学部附属病院　脳神経内科
千原　典夫（平成16年卒）

ここ四半世紀で明らかになった疾患病態の分子メカニズムがここ数年で次々と臨床応用され、医療を取り巻く環境の変化は著しい。筆者が学生の頃は“夢物語”に聞こえた遺伝子治療が難治性神経疾患患者に用いられるようになり、“眉唾物”であった癌免疫療法が場合によっては第一選択薬になっている。各科の専門性がより高度になる一方で、基本的な知識や技術の更新が求められる状況は医師という職業をより多様にしている。研究医（Physician scientist)は医学部出身の研究者のことで、臨床経験から得た患者側の視点を持っていることが特徴であり、神戸大学でも医学部生の頃からその研究マインドを涵養する土壌がある。本稿では２年間の初期臨床研修制度が適応された初めての学年に属する筆者が臨床医学研究医を目指すなかで米国ボストンに留学した際の経験をご紹介する。

ボストンはハーバード大学、マサチューセッツ工科大学をはじめとした教育機関が狭いエリアに密集しており、またマサチューセッツ総合病院、ブリガム婦人病院、ダナ・ファーバー癌研究所などの大病院および医療研究機関が近接しており、世界中から医学研究者が集まっている。街は随所に100年以上経った綺麗な建物があり、また街中に公園や草木のスペースが確保されており、空間的な余裕を生んでいる。留学中はハーバード医科大学で免疫学の大家であるVijay Kuchroo教授にお世話になり、T細胞を中心とした免疫学の基礎研究に従事させて頂いた。臨床においては患者が示す症状や症候の観察や検査値の収集によって診断や治療方針を立てることになるが、基礎研究ではより普遍的な分子メカニズムの理解を目指すことから、最初に立てる仮説が極めて重要となる。この仮説のためのヒントは過去の論文をもとにした予備実験のデータとこれまでの経験がものを言う。

現在は技術や知識の面では日本が海外に劣ることはないという考え方もある。私の分野で言うとフローサイトメトリーの機械などは日本で使っていたものと同じ物だし、比較的最新の技術であるシングルセルRNAシークエンスにしてもその技術革新という意味では全世界的に研究者が切磋琢磨している。日本との違いは共同研究までの道のりが極めてスムーズということとその規模がグローバルだということかと思う。さらに手持ちのデーターをどう編成するかについて長けているように思う。すなわち他分野との緊密なコミュニケーションによって何に注意してどの程度の評価をすればよいのかを明確に理解している。これらの違いが有力紙の論文掲載数の差を生んでいる一因なのかもしれない。ボストンは様々な研究施設が距離的にも近く、特にこれがやりやすい環境にある。筆者も幸運なことに留学中の研究成果をNature誌に掲載することができた。

ラボを一歩踏み出すと、ボストン美術館やボストンオーケストラをはじめとして文化的な教養を育むにもうってつけの場所がある。いい絵画をながめ、よい音楽を季節ごとに聞けてボストンに住んでいる人は幸せだなと思う。外国にしばらく住んでその環境において

生活しているとかえって母国のことが相対化され客観的に評価できるようになる。これは自分自身にも当てはまることで、これまでの仕事のスタイルや家族との過ごし方などを顧みることになった。私の場合は30才代半ばで渡米した。この年になると自分の生活スタイルやリズムはある程度確立しているのだが、周りの人達のスタイルとの違いがよい刺激になり、また自分の時間が持てることもあり、やはりよい変化を生んだ。これは他の友人に聞いても同様で、特にこれまで、医師として臨床現場に没頭してきたひとほど顕著であるように思う。

医療が有機的に患者さんへ還元されるために、一個人の医師としては常に俯瞰的な視点を持ち、医療者間の連携を密にする努力が欠かせない。初期臨床研修後、専門医研修と長い研修期間が続く現在の医師のキャリアにおいて、研究医の道は一見遠回りに見えるかもしれないが、実は研究にとどまらず医師として必要な素養を育む近道なのではないかと思ったりもする。本稿では私の体験と感想を書いてきたが、日本にいるのとは違う経験ができて楽しくもあり、勉強にもなる状況が伝わり、少しでも何かの参考になれば幸いである。末筆ではあるが、留学を後押しして下さった、国立精神神経医療センター免疫研究部　山村隆先生と神戸大学(現東京大学)神経内科　戸田達史先生に御礼申し上げてこの留学記を締めくくりたいと思う。

(2020年２月末日)

参考文献

Chihara N, et al. *Nature* 588: 454-459, 2018

with Prof. Kuchroo

神緑会会員の書籍紹介

『小説木戸孝允』紹介

中尾　實信（名誉会員）

世界が新型コロナウイルスの脅威に曝されている。老医は、なす術もなく余生を送るしかないのだろうか。自問自答する日々である。新しい国づくりを目指した明治の群像から、国家の指導者としてあるべき姿や志について、学ぶことが多々あるのかもしれない。

先年、開港150年を祝した神戸に縁のある人物、木戸孝允、伊藤博文、大倉喜八郎らについて歴史書を渉猟した。尊敬する大作家司馬遼太郎さんは、何故か木戸を主人公とする作品を執筆しなかった。大家の誤解を解く必要を痛感したのは、『木戸孝允日記』だった。うつ病だと司馬さんが記した人物像と異なる木戸の生涯は、馬車事故での硬膜下血腫や消化器癌との闘病だった。廃藩置県で封建制を打破し、近代国家に育てるため、人材を育成し、教育や文化を国の支柱に捉えんとした。惜しくも西南戦争の最中に病死するが、明治の大樹として、多くの枝葉を繁らせた。

作家にとって、神戸開港の歴史や神戸事件等、大倉山の大学病院での日々が重層する作品である。

折節の記　一町医者として

土佐　光弘（昭和34年卒）

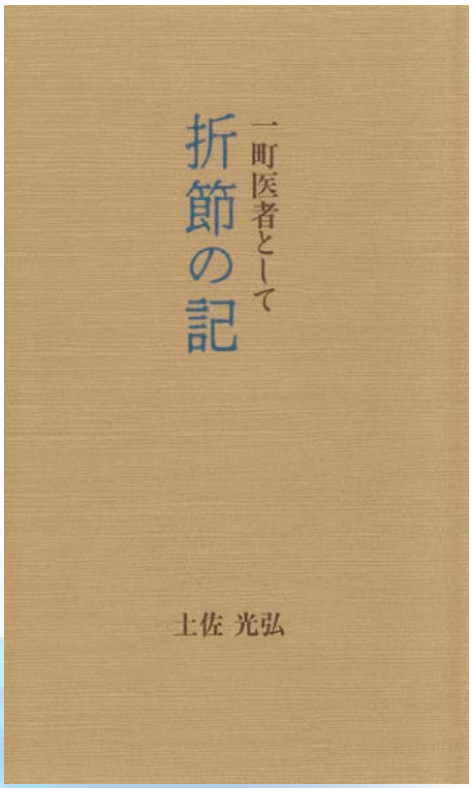
平成19年に自費出版した『折節の記　一町医者として』、今年になって、未だ我が母校神緑会に送付していない事に気付き、急遽謹呈した所、会長より紹介記事を書く様にとの依頼を受け、こゝに記することとしました。

内科医院を開業して満36年、平成19年の閉院を機に、この間、県、市、区医師会より依頼され投稿した種々の雑文を年代順に並べ、診療の合い間に描いた数葉の日本画を口絵に、一冊としました。

本文の一つ二つを、紹介させて頂きます。**目的は結果**　その日その日の／のっぴきならぬ生業（なりわい）／その時その瞬間の／緊張の火花／ふと気が付いてみれば／目的は／思いもかけぬ結果を／生んでいた／いつも／あらゆる事が／こうなんだ　**あれから50年**　医学を学び始めて50年、私は、医学をめざして歩いて来た。医学の進歩が、病気を駆逐する日が、いつか、きっと来ると信じて。医学を学び始めて50年、私は、臨床をめざして歩いて来た。医療の進歩で、病いに苦しむ人が、いなくなる日が、いつか、きっと来ると信じて。医学を学び始めて50年、私は、町医者をめざして歩いて来た。優しい心をもってすれば、良医になれる日が、いつか、きっと来ると信じて。

最後になりましたが、掲載の機会を与えて頂きました木戸良明会長に、厚く御礼申し上げます。

ページの見開き、右は自画像（日本画）



クラス会便り

丙申会（６回生）（医大 昭和31年卒）

森下　敬司（西宮市　森下内科医院）

私達はS27年に入学したが最初の２年間の教養課程は、篠山農科大学と姫路工業大学にあった夫々 40名の「医学進学コース」を経て、更に外部の諸大学からの数名と共に計87名が本科１年生となった。

当初は全員真面目に授業に出席して居たが、段々と慣れるに従って代返して貰って大学周辺にあった数軒の麻雀屋に入り浸る学生も多く居た。

特筆すべきことは、之まで男子ばかりの大学が私達のクラスから初めて５名の女子学生が入学した事で有った。（橋本禮子、大脇成子、阪本照子、鈴井皆美、三田富美子各女子）。

神戸の大学から遠方の学生は大学周辺、特に平野あたりに多くあった下宿屋に下宿して居り、親しい友人らが泊まり込んでは夜通し語り合ったりして大いに青春を謳歌して居た良き時代でもあった。

当時は全学連の活動が活発な時であり、あちこちの大学で教授のつるし上げが有ったりして居たが本校の自治会は比較的に穏やかで特に荒れる事も無かった。

当時、４年生は卒業前でもあり全校自治会代表は３年生が受け持つ事になって居り、たまたま私がその任についていたが同年東京で開催された全学連大会からオブザーバー参加の要請があり、当時の学長は生理学の泰斗・正路倫之助先生で頭も身体も声も大きく熱血漢風で人を圧する様な感で怖い存在だったが、叱られるのを覚悟で恐る恐る学長室にその旨を報告に行ったところ何んと“気を付けて”と優しい言葉を戴いた。

３年生の時に行った文化祭行事も思い出深い。自ら広島の原爆で被災した丸木位里と妻の俊の共同制作した“原爆の図”をお借りして展示し、また市民公開で原爆投下時に降った“黒い雨”と題する講演会を大阪市立大学の放射線科助教授にお願いした。

また当時は多くの人達が回虫症に罹って居り、その回虫卵を顕微鏡で見て貰ったりして多数の市民の方々の参加を得て文化祭は大盛況であった。

４年の学業を終わって卒業後は、それぞれ母校の大学病院や各地の関連病院で１年間のインターンを経てS32年に医師国家試験を受けた。確か全員合格だったと思うが卒業年度がS31年で十二支・十干では「丙申」（ひのえさる）の年と言う事で私たちのクラス会を“丙申会”と称して居る。

医師になってからは毎年各地でクラス会を開き懇親を深めていたが、その後は段々と参加者も少なくなり“ホテル大倉”で開催したのが最後となった。

さて、人は何時かは死を迎えるが本年１月現在で入学時87名だった同級生も57名の方々が亡くなられて居り、残りの30名も何人かは閉院したり病に伏して居られるとの事。クラスの多くはS6年生まれで88歳の“米寿”の歳に当たり、先日、日本医師会や県医師会から「金杯」を戴いたが、残り少ない人生を神や仏に感謝しながら全うしたいと思っている次第です。

H31年１月19日　記

三四会（昭和34年卒）

大西　則男

卒後60周年クラス会

令和元年６月22日、三宮の日本料理鈴江で卒後60周年クラス会を行いました。

15名の出席と長野の花岡先生が協賛参加されました。毎年クラス会を行っており、阪神地区、神戸地区、西部地区と持ち回りでお世話して頂き、４～５年前頃は25名前後の参加者も、昨今では主として健康上の問題で15名どまりです。それでもみなさん一応はお元気のごようすで、和食に舌鼓を打ちながら楽しい歓

談のひとときを過ごすことが出来ました。これからも、みなさんのご意向があり毎年開催したいと思っておりますので、体調にご留意され出来るだけたくさんの先生方のご参加をお待ちしております。名古屋のＩ先生出席の通知を頂いておりましたが、定刻になっても現れず迷っておられるのかもと数名で周辺を探しましたが…。

六一会（医大 昭和36年卒）

会長　岡田　昌義

卒後58回目を迎えた2019年度の「六一会」を開催して

卒業後、第58回目を迎えた「六一会」が、毎年６月１日（土）に開催されることになっている。令和元年６月１日は、年号が新しく変わって初めてのクラス会であり、当日は朝早くから快晴に恵まれたが、非常に蒸し暑い日となった。18時１分から、神戸の神仙閣で開催されることになっており、時間が近づくにつれて、三々五々、人が集まってきて、三階のある部屋の３つのテーブルに思い思いが好きなところに座った。今年は、総勢22名の出席がみられ、昨年よりも３名が増加した。まず、最初に昨年からこの１年間に亡くなられた先生方に黙祷が行われた。すなわち、中谷健二、松村武男、斉藤利實、鶴　圭一郎先生達に対してである。今年は出席者も３名増加したのであるが、これは我々の年代になると、出席したいと思っても、その日になって、どこか具合の悪いところがあったりして、出席ができなくなることがある。欠席者の中には、今年は足、腰に痛みがあるとか、食欲が良くないとか、全身がだるいなどといった、障害がみられた。

さて、最初に司会者からの挨拶でスタートしたが、まず出席番号１番の音頭で乾杯が始まった。オードブルが運ばれてきたが、これでしばしの時間が過ぎ去った。皆さんは、「おいしい」と言って食べていた。これが終わると、どんどんと料理が運ばれてきたのであるが、これらの食事の途中で、各人のスピーチがテーブルごとに回ってきた。そのトップが私であった。まず、マイクをもって今年は、３月に第136回ドイツ外科学会やデュッセルドルフ大学とフランクフルト大学で３回にもわたる講演を行ったりして、また６月には台北や国内学会にも参加して、大変多忙を極めた。さらに、９月には、ドイツ、オースリー、スイス三国血管外科学会や11月にはイタリアはフローレンスでの学会などにも行き忙しくなるであろうという話を続けた。さて、別の人は、毎日常勤で働いており、充実した生活を送っているという人もいたが、今や息子や娘に診療所や医院の診療を任せるという人が大半を占めていたが、中には週に１回か２回程度診療を手伝って

いるという人もいた。さらに、仕事から全く手を離れるのは少しつらい面もあるだろうという人もいた。そうかと思いきや、後継ぎがいなくて医院を完全に閉めてしまった人もおり、まさに毎日がサンデイ毎日であるとか、さらに以前から競馬に凝っている人もいる。しかし、何らかの仕事をしている人は、少し若々しくも感じられた。これらの途中で、会計報告があったが、例年アルコールの飲む量が毎年減少しているということであり、少し黒字になっていた。飲む人は、ビールや紹興酒などを飲んでいるが、最近ではアルコール類をウーロン茶とかに変えて飲んでいる人が多くみられている。最近では、このようにアルコール類をこのように変更している人が多くみられている。このようなことは、健康面の上からは、非常に良いといわざるを得ない。皆さんは、何を多く食べるのが良いのか、その良し悪しを考えて行動をしている。このようなことを話している間に時間が過ぎ去っていき、参会者の全員集合写真を撮る時間になった。

これらが終了し、また来年、令和２年６月６日に、第59回の「六一会」に集まりましょうという約束を行った。このようにして、時間の経過するのも忘れて実に楽しいクラス会を持つことができた。

出席者の全員集合写真

六三会（医大 昭和38年卒）　西村　亮一

異彩を放つ仲間たち

我々「六三会」（1963年卒業）には異彩を放つ仲間達が沢山いる。卒業55年を記念して、その方々を表彰することにした。

東洋医学の西田皓一君

我々の学生時代には東洋医学の講義は全くなかった。むしろ、それを避けていたような風調であった。四国の高知の片田舎で、むしろ独学で、この道を極めたのが西田皓一君であった。今では四国のみならず全国でその名をほしいまゝにしている。西洋と東洋の医学を併用した「東西チャンポン医学」として著書も多数である。（図１）

図１

17冊目の出版
一般の人々向き「腰痛のハリ治療」

陶芸の三浦　徹君

学生時代から丹波立杭焼きに魅入って以来、本職の産婦人科医の傍ら数々の作品を作り上げてきた。色んなところで個展を開き、数々の展覧会で入選され、その数は枚挙に暇がない。（図２）

図２

絵画の吉田澄子さん

40年以上の長きにわたって創元展に出品されている。六本木にある新国立美術館で毎年４月の初めに開催されている。静物画に始まり、今では感動的な人物画を発表されている。（図３）

図３

第76回創元展（2017）ボートに乗ろうよ
吉田澄子

音楽の和田　勇君

和田君はまれにみる音楽の才能の持ち主である。中学３年の頃より作曲にのめり込む。ピアノ曲、歌曲、合唱曲、クラリネットの曲、フルートの曲などその数たるや、ものすごい量である。出版されたものも多数ある。皆んなによく唱われる「明けゆく大空、六甲に…」は神戸大学医学部の歌である。

同窓生の伊東　宏君がクラスのために素晴らしい詩を作ってくれた。2019年６月１日、神仙閣で行われた56回目の同窓会において皆んなで大合唱をした。もちろん作曲は和田　勇君である。

この詩を披露して稿を終えたい。

六三会「轍（わだち）の歌」

作詩　伊東　宏
作曲　和田　勇

楠の新緑の下　白き心で集いし我ら
学び舎離れて　はや幾星霜
医の道厳しく　日々呻吟す
　我ら刻めり　轍の跡を
　集いて語らん　水無月の夜

仰ぎ見る六甲の峰　爽やかな風そよぐ
学び遊びし学生時代　恩師の影や今いずこ
医の道深く　未だ至らず
　我ら刻めり　轍の跡を
　集いて語らん　水無月の夜

瀬戸の海眺めて　はるか友の顔
傘寿を越えて　なお生きんとす
医の道遠く　到らずを恥ず
　我ら刻めり　轍の跡を
　集いて語らん　水無月の夜

43会（昭和43年卒）　酒井　英世

この原稿を書いている今日（2020年２月27日）現在、中国に発したコロナウィルス感染症が日本でもパンデミックになるかどうかの瀬戸際になっています。私たち医療者にとっては特に危機感を感ずる状態で、一日も早く収束に向かってほしいものです。

さて、2019年春に後藤武先生が永年にわたる地方自治への功績により瑞宝小綬章の栄誉に浴されたのを機会に、11月30日に北野クラブで卒後51年目の同窓会を兼ねた祝賀会を開催しました。出席者は男性25名、女性５名、合計30名。時々は会う人が多い中、本当に久しぶりの人も来てくれました。出席者はみんな元気そうで、まだフルタイムで仕事をしている人、セミリタイアして比較的ゆったりペースで仕事をしている人、空いた時間は趣味に、その他いろんな分野の活動にとそれぞれに充実した人生をすごしている印象でした。しかし、もうみんな喜寿前後の年頃。健康状態は？となると全く何の問題もない人は少ないはず。大病を克服した人、現在もいろんな病気や障害を抱えて治療中の人もいました。私たちは、インターン制度廃止、医局改革などを訴えて全国規模の医学部ストライキやデモ、国家試験ボイコットなどを決行し、国をも動かした熱い学年でしたが、その記憶も遠い昔のこ

ととなりました。しかし、こうして久しぶりに会って話していると、若かりし頃の思い出話、その後の様々な経験や含蓄のある話、この年齢相応の同感できる話などが入り交じり、同窓会に参加できて本当によかったなあと実感できました。参加できなかった人には深刻な病気や不具合と闘っている人もいます。少しでも健康を取り戻し平穏な日々を過ごしてほしいものです。私たちの学年は卒業時86名でしたが、すでに25名が亡くなっており、寂しい限りです。前後の学年と比べても際立って多く、なぜなのか？　いつも考えますがわかりません。43会の世話役を本当によくしてくれていた清岡政徳先生、田中郁人先生、蓮池浩明先生も亡くなり、残された私たち61名で何とか同窓会を維持している状態です。この祝賀会の直前になって小泉直子先生が2018年春に旭日中綬章を受けられたことが判明。ご本人は出席できませんでしたが、その報告とお祝いもしました。同級生に２人も叙勲者が出たことは誇らしいことです。まだ今後も出るのか。また祝賀会ができれば望外の喜びです。

M８同窓会（昭和50年卒）

吉永　和正

M８同窓会は2019年11月30日（土）18:00より神仙閣で開催されました。この数年、恒例となっている同級生による30分のミニ講演会、それに引き続いての会食、近況報告と会は進みました。

ミニ講演会は元神戸大学麻酔科教授の前川信博君による「こんなに変わった気道確保の方法！－喉頭鏡は骨董鏡？老眼でも大丈夫？」という演題名の話でした。気道確保の歴史的な話を交えながらいろいろの方法が紹介されましたが、私にはとても印象に残った話があります。直視型喉頭鏡は頭の重さに逆らって顎を持ち上げることで喉頭展開できるのであって、無重力ではこの手技は使えない。ラリンジアルマスク(LMA)による気道確保は無重力でも可能、なるほどと思いました。欧米では全身麻酔の気道確保はLMAが主流だが、日本では気管挿管が主流。直視型喉頭鏡から今はビデオ喉頭鏡となっている。ビデオ喉頭鏡はモニターを多数の者が見ながら実施されるので、挿管トラブルの責任分散にもなるとのことでした。

この後は会食となり、少したってから参加者それぞれの近況報告がありました。古稀の話が出てくる世代となっており、現役を退いたという方もいましたが、まだ多くの方はもう少し細々とでも仕事を続けるとい

うことでした。なかには、やっと孫ができた、そのかわいさを楽しんでいるなど、それぞれの近況が報告されました。

今回の出席者は直前でのキャンセルもあり23名とやや少ない集まりでした。これには今回の連絡方法も影響したのかもしれないと思い見直してみました。今回の準備では同窓会の裏方を引き受けてくれている今井直昭君と相談して案内は往復葉書でなく通常の葉書として、出欠の返信をメールまたはFAXにしました。80通の送信に対して51名からの返信がありました(FAXは８名、残りはメール)。返信状況は従来と変わりないとのことで、このような運用自体は問題なさそうです。

メールでの返信を導入したことによるメリットもありました。長文の近況報告が多く返ってきたことです。中には1900字に及ぶものもありました。これらの返信は一覧にしたものをプリントして参加者のテーブルにおいて読んでもらいました。葉書の返信では考えられないほど詳細な内容となっていました。集合写真をすぐに配信できることもメールのメリットです。

次回の幹事は竹内一喜君に、ミニ講演は横山和正君にお願いすることとなり、最後に集合写真を撮って散会となりました。

昭和54年卒クラス会（昭和54年卒）　伊藤　成規

今は新型コロナウィルスの感染拡大で大変な状況ですが、そんな気配も何もなかった昨年11月23日に新神戸のANAクラウンプラザホテルでクラス会を開催しました。２年前にクラス会を行ったばかりでしたが、2019年はちょうど卒後40周年に当たる年でしたので、急遽８月から準備をして何とか開催できました。今回は前回の名簿をもとにして、メルアドが分かる人にはメールで、不明の方にはハガキで呼びかけ出席を募った結果、56名の先生方に出席していただきました。前回が44名でしたのでまずまずの出席率です。一人一人のショートスピーチだけで時間をほとんど費やしてしまいましたので、カラオケを用意していたのですが、私が一曲歌っただけで終わってしまいました(笑)。デザートに40周年記念とデコレートしたスクエアケーキとブランデーファイアのチェリージュビレを用意したのですが、これは中々好評だったと思います。

２年前にクラス会があったことと普段から時々研究会などで顔を合わせている面々が多かったので、名前と顔が一致しない、昔の面影（や髪の毛）が全くない

というような事はあまりなかったようです。それでも久しく合わなかった先生方の話も聞けて楽しい時間を過ごすことができました。ことに女性陣の出席率が10/12と極めて高く、やっぱりいつの時代も女性が強いようです。当時は今と比べて女性の割合が低く１割程度でした。私たちの学年はそれまでの100人定員から120人定員に増加された学年で、変わった輩が20人ほど余計に入学したと言われたものですが、もちろん誰がその20人かは分からないものの、確かに私も含めてそう真面目な学年ではなかったように思います。それでも何とか医者になって皆元気に活躍しているのを見ると、また頑張ろうという気持ちが湧いてきます。幾つになっても同級生は良いもので、即座に昔に帰ったような気分でした。

一次会の後はLevel 36での二次会でしたが、受付での女性陣のプロ並み？の呼び込みで、最初の予定の人数の1.5倍程の参加者となり大変盛り上がりました。今回は一次会の開始を17:00と早くしたのもあって二次会と言っても始まりが19：30で、新幹線も近く遠方の先生方も余裕を持って残れたのもあったと思います。最後は更に10名ほどが残って4Fのザ・バーで三次会となりやっと終了でした。また翌日は川田先生が幹事となりオリムピックゴルフクラブでのコンペも企画されていましたので、二組がラウンドを楽しまれたようです。次回はまた２～３年後に開催予定として水野先生に幹事をお願いしました、今回の幹事としてお手伝いいただきました、一柳先生、栗本先生、杉村先生、宮地先生には大変お世話になり、この場をお借りして御礼申し上げます。また皆さんで楽しく集まりましょう、有難うございました。

平成11年卒同窓会

小別所　博

我々平成11年卒業生は2020年２月９日（日）にホテルクラウンパレス神戸において卒後20周年同窓会を開催しました。卒後20年にしてはじめての開催でした。クラス代表である清田先生と私のもとには何年も前からクラス会だよりを神緑会学術誌に投稿するよう催促がありましたがなかなか実現していませんでした。学生や若手医師の教育に尽力している総合内科の乙井先生の一声でようやくこのたび実現することができました。

卒業から20年という月日は長く、同窓生の連絡先をまとめるのに少々苦労しましたが、病院ホームページで職場を探し当ててはがきを送ったり、Facebookといったsnsを活用することにより、最終的には当日は34名に出席いただきました。

司会を清田先生にお願いし、乙井先生の乾杯の挨拶で会はスタートしました。しばらく歓談したあと、一人ずつ近況報告を行いました。容姿はそれほど変わっていませんでしたが、20年という時が皆に落ち着きを与え、紳士・淑女の雰囲気が感じられました。

近況報告のあとには乙井先生の計らいで卒業年である1999年産の赤ワインのグラスを手にみんなであらためて乾杯しました。山口県から遠路出席いただいた山本（長瀬）先生からいただいたお土産の山口銘菓とのペアリングが最高でした。

仕事のこと、こどものこと、趣味のこと、いろいろなことが話題にあがり、あっという間の２時間でした。

卒後20年間同窓会ができていませんでしたが、これを機に名簿も整備されましたので、これからは定期的に集まれるのではないかと思います。今回参加できなかった同級生の皆さん、次回はぜひ参加ください。そして神緑会のネットワークを広げていきましょう。

最後に、同窓会の準備にあたって、幹事の皆さん（乙井先生、清田先生、高谷夫妻、宮崎先生）には多大な協力をいただき誠にありがとうございました。

支部会便り

東灘支部

西川　淳介（平成元年卒）

東灘支部では年１回の総会・懇親会（５月）と３年に１回の総会・講演会（平成30年度は六甲アイランド甲南病院泌尿器科、田中浩之先生　平成元年卒）懇親会を行っております。

現在、支部長：西川淳介（平成元年卒）、副支部長：坂田宗昭（平成10年卒）、会計：黒田祐一（昭和62年卒）　A会員（主に開業医）58名　B（勤務医）会員52名（移動あり）。

令和元年５月11日（土）：神戸ベイシェラトンホテルにて東灘支部総会が13名の参加の上で開催され、会計報告、行事報告、議事（支部長･副支部長の選任）が行われました。

昨年度、９月１日に開催された神戸大学医学部創立75周年神戸病院創立150周年記念式典、記念公園（山中伸弥先生）が一番の話題となっておりました。

本年度の総会･懇親会も５月を予定しておりますが、新型コロナウィルス流行のため開催時期は未定となっています。

加古川支部

荒川　俊雄／上垣　省三(昭和58年卒)

2019年11月７日　令和元年度の神緑会加古川支部総会が、加古川プラザホテルで開催されました。

支部長の長谷川昌美先生の挨拶に続き、会員移動報告・物故者への黙祷を行い、議事では会計報告と監査報告があり、役員の改選に関しても変更なしとのことで承認されました。その後田中邦彦先生に神緑会本部の現況報告をしていただきました。

議事の最後では、長谷川昌美先生から現在の執行部役員の気持ちと意気込みに関してのお話がありました。

特別講演では「医者の出番から僧侶の出番へ」と題して、鶴林寺・真光院住職　吉田実盛様に僧侶の立場からのお話をいただきました。鶴林寺は国宝や重要

建築物がそろっており地域の方からも慕われている事や、火葬は人を大自然に還し、死後も見えない姿で私達を見守り続けており「見えない個人とつながっている」事など、グリーフケアについても教えていただきました。最後には実際にあった家族の愛情の深さを感じさせる「卵かけご飯」のお話で一同涙ぐむシーンもあり、有意義な説法となりました。

懇親会は前田圭子先生の開会挨拶に続き、釜江省五先生に乾杯の音頭をとっていただき、歓談と食事を楽しみました。途中各病院の紹介を加古川医療センターは田中宏和先生に、加古川中央市民病院は金田邦彦先生にしていただき、親睦を深めました。約１時間の和気あいあいとした懇親会で、あっと言う間にお開きとなりました。

明石支部

中村クリニック外科・胃腸科
中村　守（昭和54卒）

本年２月８日明石支部定期総会を開催しました。

神緑会新会長　木戸良明先生を来賓としてお招きしました。

木戸先生より大学病院、医学部、そして現神緑会の現況などをお話いただき、総会が始まりました。

記念写真撮影の後、木戸先生を囲んだ和気あいあい（本当に和気あいあいでした）の懇親会が催されました。

木戸会長も支部長（私です）も共通の悩みは、総会に出席してくれる会員数と、若い勤務医の神緑会への関心の低さです。

明石市内には明石市民病院、明石医療センターと県立がんセンターの３大病院があり、それぞれに若い会員の先生はたくさんおられるのですが、なかなか出席いただけません。

それでも北播磨総合医療センターからはS40坪田紀明先生、明石医療センターからはS45千原和夫先生、と重鎮にも参加いただいたことは喜ばしい限りです。

支部長として明石支部をもう少しでも盛り立てなければと切に思う今日この頃です。

令和２年２月８日　HOTEL CASTLE PLAZA

淡路支部

支部長　**藤井　啓誠**（昭和54年卒）

令和元年度の神緑会淡路支部総会は令和元年11月21日に洲本温泉にあるホテル「夢海游淡路島」で開催されました。会に先立ち、残念ながら令和元年６月５日に他界された当支部の重鎮であられた香山匡史先生（昭和28年ご卒業）に黙祷を捧げご冥福をお祈りいたしました。次に総会に入り、私の方から令和元６月29日に開催された神緑会定時総会での各種審議事項や委員会報告について説明させていただきました。その後、会計担当の瀧川卓先生から平成30年度の会計報告ならびに石濱義民先生の監査報告があり出席者

全員の承認を得ました。総会終了後、特別講演として淡路医療センター心臓血管外科の高橋宏明先生より「心臓血管外科領域における低侵襲手術」と題して講演をしていただきました。講演会のあと会場から活発な質疑応答があり総会は無事閉会となりました。

引き続き懇談会となりましたが、先輩と後輩、勤務医と開業医の枠を越え和気あいあいと歓談のうえ旧交をあたためました。

今回の参加者は開業会員14名中７名、私立病院勤務会員９名中２名、淡路医療センター勤務会員43名中18名の計27名で以下の先生方でした。

(敬称略)

松尾　武文(昭和35年卒)　木曽　康裕(昭和36年卒)
松尾　政子(昭和39年卒)　石濱　義民(昭和41年卒)
瀧川　　卓(昭和55年卒)　三木　隆彦(昭和57年卒)
小山　隆司(賛助会員)　杉本　貴樹(昭和58年卒)
松岡　英仁(昭和62年卒)　奥田　正則(平成 2年卒)
小谷　義一(平成 4年卒)　西　勝久(平成 5年卒)
阪上　義雄(平成 5年卒)　魚谷　健裕(平成12年卒)
高橋　博明(平成13年卒)　藤本　恒(平成24年卒)
河本　達也(平成27年卒)　雑賀　柾哉(平成30年卒)
草壁　優大(平成31年卒)　草葉　光樹(平成31年卒)
久保田いろは(平成31年卒)　千田　友佳(平成31年卒)
西内健太郎(平成31年卒)　森井　淳詞(平成31年卒)
と私でした。

西宮支部

中川　壮平 (昭和43年卒)

2019年度の神緑会西宮支部総会は、令和元年10月26日にホテルヒューイット甲子園にて開かれました。

総会後の講演は、今年の６月に西宮市で新規開業されましたS48年卒の大井静雄先生にご講演を頂きました。演題は『神戸大学医学部に学び、与えられし世界の医療現場：22ケ国での救済手術“すこやかなれ！世界のこども達”－WHOCH(World Help of Children with Hydrocephalus)－』ということで、神大学生時代のESSクラブから発展し、現在も続いている西日本医科歯科薬科学生ESSクラブの話、その延長線上でのアメリカ留学、脳神経外科への道、日本に帰ってからの、ドイツと慈恵医大との小児脳疾患外科での連携など、国際的視野からの興味あるお話を伺いました。

講演の後は、和気あいあいの食事会にて交友を深めました。

今回の出席は10名でした。若い先生方の参加を望みたいところです。

参加者

柴田　始宏（S40）　柴田医院
山下　忠義（S41）　山下胃腸外科
中川　壮平（S43）　中川産婦人科クリニック
大井　静雄（S48）　大井クリニック
吉矢　晋一（S54）　西宮回生病院
大崎　往夫（S54）　明和病院
伊賀　俊行（S59）　伊賀眼科クリニック
岸　清彦（S62）　明和病院
二宮　貴子（H 7）　西宮市医師会診療所
稲垣　忠洋（H14）　いながき内科クリニック

宝塚支部

金川　清人（昭和51年卒）

神緑会宝塚支部は毎年１回支部会を開催しており、元和元年は６月15日（土）午後６時から宝塚ワシントンホテル島家にて行いました。

参加者は前列左から原田義昭、末岡悟、金川久美、後列左から金川清人、岡村雅雄、広瀬哲司、片上信之、山崎要、清水卓の各先生でした。（順不同、敬称略）

片上信之先生が宝塚市立病院に副院長として赴任され、愛仁会あいわクリニック院長として岡村雅雄先生が赴任されました。

この日はお元気だった山崎要先生が昨年末にお病気で逝去されたと聞き大変驚いています。先生のご冥福をお祈りします。

R.2.2.28　文責　金川清人（S.51卒）

岡山県支部

川崎医科大学・川崎医療福祉大学名誉教授

田淵　昭雄（昭和43年卒）

川崎医科大学と神緑会岡山県支部

川崎医科大学（以下、医大）は1970年に創立され、2020年の今年で50周年を迎えた戦後初の新設医科大学である。川崎学園創設者の川﨑祐宣は当時何と66歳で「人間をつくる、体をつくる、医学をきわめる」を建学の理念として、倉敷市松島の田圃の中にそびえる医大と附属病院(開設：1974年)、さらに生坂に全寮制の附属高等学校を開学した。「良医」を世に送るという彼の熱意は、さらに「良き医療人、医療福祉人」の育成を目指して川崎医療短期大学（1973年)、川崎リハビリテーション学院（1974年)、そして川崎医療福祉大学（1991年）の開設に繋がっており、2016年には岡山市にあった川崎医科大学附属川崎病院を川崎医科大学総合医療センターとして発展している。（写真下参照）

現在、川﨑明徳（創設者の息子）が川崎学園長で、川﨑誠治（創設者の孫）が理事長、医大の５代目学長が福永仁夫教授である。

私は1968年に神大を卒業し、1977年に医大の眼科学教室助教授、1989年に同教授、2005年に名誉教授に、併任していた川崎医療福祉大学の感覚矯正学科（1992年～）も2013年に名誉教授となった。現在も非常勤講師として後者の学生の教育に携わっており、私は約43年間の医大の変遷を体験していることになる。

私の赴任当時は医大の２期生が卒業した時で、外来や入院の患者も僅かであった。また、学生の教育は、ほとんどが新進気鋭の教授や助教授が行っており、「これほど恵まれた学生は他学に無いだろう」と感心したことを覚えている。医師国家試験合格率が数年間100%近かったのは当然の結果と思った次第である。その後、医療社会のめまぐるしい変化に対応して医学教育の変化も余儀なくされ、医大生は国家試験合格を目指して、ますます厳しい勉強に専念している。しかし、若し「医大の特徴は何か？」と問われると、私は「開学以来、一貫して学生の面倒見が良いことが一番の特徴」と答えるだろう。医大生に対して、学業はもちろん普段の生活においても教員が親身になって面倒を見ており、卒後、医師になってからの評判が良いのはそのためと思っている。

さて、医大の教員として神大出身の先生は少なく、私の知る限り、放射線科（後述）、救急医学（木戸訓一：1984卒、仁科雅良：1981年卒、講師、後に島根医大教授）、泌尿器科学（藤澤正人：1984年卒、2002年教授、後に神大教授）、小児科学（小林嘉一郎：1970年卒、助教授）、眼科学の私および宮崎茂雄（1978年卒、1997年講師）、病理（清水道生1981年卒、講師、後に埼玉医大国際医療センター教授、現博慈会記念総合病院病理）、そして公衆衛生学（勝山博信：神大院1990年卒：教授）である。

放射線科は医大開設当初から神大も関与し、先ず、（治療部門）で吉田岑雄講師（1965年卒）私と同期の今城吉成先生（1968年卒）が、次いで（診断部門）で梶原康正助教授（1964年卒、1992年教授）と神大から派遣された若い研修医が所属していた。その後、（治療部門）に今城吉成先生が助教授として再赴任され、その後教授となられ、心強い仲間として定年（名誉教授、川崎医療短期大学学長歴任）までお世話になった。現在は（治療部門）に平塚純一先生（神大1981年卒）が1986年から赴任され、2008年に教授、今年の３月に定年（名誉教授、川崎医療福祉大学診療放射線技術学科長）の予定である。彼は昨年９月に山陽新聞社会事業団から「HDR（高線量率組織内照射療法）」という永年の業績で「松岡良明賞」を授賞した。（今年２月の神緑会令和元年度臨時総会で栄誉賞が贈られた。）また、同部門で余田栄作助教授（1992年卒）が活躍している。

眼科について言えば、私が赴任した1977年頃は岡山大学中心の世界で、神大卒の私一人が活躍するには大きな壁があった。さらに、医大の東は岡大病院、西は倉敷中央病院に挟まれ、新患も紹介患者も少なく、私が専門とする小児眼科は赴任後しばらくして認識されるようになり、患者は徐々に増えた。上司の故筒井純教授が専門とされた神経眼科においても同様であった。しかし、中国・四国地方で神経眼科や小児眼科を専門とする施設はなく、医大の眼科が発展した大きな理由である。最初の２、３年は若い医局員がその状況を気にすること無く、医療技術習得に十分な時間を取れたのは幸いであった。しかし、数年後の問題は関連病院が皆無で、岡山県内での開拓は容易でなく、仕方なく兵庫、香川や山口県（広島県は無し）の病院探しに苦労した。

最後に、神緑会岡山支部について簡単に紹介する。2020年１月現在の神大卒会員はＭＬ上では45名である。2017年から支部長が私で、副部長が県北の山田信夫先生（1972年卒、津山中島病院）、監査監事が今城先生、事務局が平塚先生と余田先生の放射線科、事務担当が勝山先生である。

本支部会が何時、発足したのか不明で、私が最初に出席した支部会は梶原教授が支部長の時であった。その頃は、毎年１月前後にホテルグランビア岡山で10名前後が出席した。しかし、梶原教授が2010年に心筋梗塞で倒れられて以降、2015年に前律夫先生（1964年卒、倉敷医療生活協同組合理事長）が支部長になられ、2017年に私が担当することになった次第である。（写真下参照）

平成２年以降に卒業された若手会員が15名（但し、倉敷中央病院には６名の研修医）もいることから、若い医師が集まりやすい支部会にするべく検討している。今年は６月20日（土）に、平塚先生の医大名誉教授就任祝いという名目で開催予定である。

2010（H22）年度　神緑会岡山県支部会
2010.9.23　ホテルグランビア岡山

広島支部

支部長　酒井　規雄（昭和61年卒）

令和元年度神緑会広島支部会を８月10日（土）に開催いたしました。松浦秀夫先生（昭和48年卒）、大澤多美子先生（昭和55年卒）、小西英己先生（昭和56年卒）髙山昇三先生（昭和56年卒）、原田陽介先生（平成17年卒）、酒井規雄（昭和61年卒）の６名の参加者がありました。始めてのこの会に参加いただいた原田先生の話題を中心に、９月に行われる予定の神戸大学医学部75周年記念祝賀会のこと、大澤先生の同級である佐野輝先生が鹿児島大学学長に就任されたことなどで会話が弾み、あっという間の２時間余りの楽しいひと時を過ごしました。広島の地で、年に一度、母校の話題で話が盛り上がることに、この会の開催の意義を感じております。今後も少数ではありますが、支部会活動を地道に続けていく所存であります。よろしくお願いいたします。

大阪支部（大阪神緑会）

岡村　雅雄（昭和56年卒）

令和元年度の大阪神緑会総会は例年と同じく大阪駅前第一ビル12階の「神仙閣」に７月６日（土）16時30分より開催されました。当日は総会40名、総会後の懇親会40名の参加がありました。髙岡秀幸理事（61年卒）の司会により開始、戸田常紀先生（46年卒）が議長に選任され、奥町冨久丸会長（48年卒）より理事会にて岡村雅雄副会長（56年卒）に会長の交代が決定した旨報告あり、総会にて承認されました。定

令和元年７月６日　於　大阪神仙閣

例理事会会務報告に引き続き、中尾正俊副会長（54年卒）より事業計画が上程され、小泉須磨子副会長（55年卒）より会計報告ならびに予算案が上程され承認されました。

総会に続いて行われた学術講演会は、大阪市立大学大学院医学研究科視覚病態学教授　本田茂先生（平成３年卒）を講師にお招きして、「網膜疾患に対する最新医療」と題してご講演いただきました。講演会の後、髙岡秀幸理事（61年卒）の司会にて懇親会が開催されました。来賓として、一般社団法人神緑会会長木戸良明先生（61年卒）にもご出席いただき、ご挨拶をいただきました。恒例の還暦のお祝い該当者は７名で楽しい歓談が各テーブルで繰り広げられ、今年も和気あいあいとした会となりました。

激励会・四季会は、10月26日（土）18時より、ホテルグランヴィア大阪で30名の参加がありました。今年の激励者は荘田静先生（33年卒、瑞宝双光章受章）、石田武先生（44年卒、淀川キリスト教病院グループ理事長就任）、石井一成先生（61年卒、近畿大学放射線診断学部門主任教授就任）のお三人で出席者全員でお祝いするとともに懇親を深める和やかな会となっています。

第39回大阪神緑会ゴルフコンペは11月10日（日）宝塚クラシックゴルフ倶楽部にて８名の参加がありました。寒原芳浩先生（56年卒）が100オーバーの参加者の中ただ一人80台のスコアで優勝されました。

第41号大阪神緑会会報は令和元年12月15日に発行しました。現在（令和２年２月末）の会員数は518名、うち勤務医307名、開業医190名、その他21名です。定例理事会は奇数月第３金曜日に「八幸」にて毎回理事10名以上が出席して開催しています。

表紙絵「待春」　宮地　千尋（昭和54年卒）

氷の解け始めた池の水面に残雪が映え、春の訪れが感じられます。雪解けの妙高高原　いもり池です。

編集後記

この編集後記を書いている最中に、新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の対象地域が全国に拡大されました。兵庫、大阪はすでに発出されておりましたが、その他の地域でご勤務されておられる先生におかれましても大変厳しい状況の中でのご勤務となりご苦労されておられることと拝察いたします。神緑会におきましても事務局が神戸大学病院の敷地内にあることから、事務局員の勤務形態も時短勤務にしながら様子を見ているところでございます。会員の先生方には、大変ご不便をおかけしていることを心よりお詫び申し上げます。このような状況の中ですので、ニュースレターの発刊も予定より若干遅れましたことをご理解いただけましたらと存じます。今回のニュースレターでは、新たなコーナーも始まります。このような状況の中ではありますが、同窓会誌として会員の先生方や学生さんの近況やご活躍の様子をお届けし、ひとときの寛いだお時間となればと願っております。

（広報委員会）

神緑会ニュースレター
第12巻第１号

発行
一般社団法人神緑会　会長　木戸　良明
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5-1 神戸大学医学部内
TEL 078-361-0616　FAX 078-361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷
小野高速印刷株式会社
〒670-0933　姫路市平野町62番地
TEL 079-281-0008　FAX 079-223-3523
URL:https://www.ohp.co.jp/
http://www.dousou.info/

2020年版

神緑会 会員名簿が発行されました

会員相互の親睦にお役立てください

神緑会会員名簿2020年（令和２年）３月１日現在版が３月末に発行されました。
多数のお申込みをいただき、誠にありがとうございます。
大変見やすくなったとご好評いただいております。
数量に限りはございますが、ご注文を承ることが可能です。
ご購入ご希望の場合は、下記神緑会事務局までメールまたはFAXでご連絡をお願い致します。
１冊 10,000円（送料込）です。

一般社団法人　神緑会
〒650-0017　神戸市中央区楠町7-5-1
TEL 078-361-0616　FAX 078-361-0617
E-mail：sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

THE GARDEN PLACE SOSHUEN（約80m／1分）　イメージイラスト（車のガラスに外観完成予想図をCG合成したもので、実際とは異なります。）

阪急神戸線

「御影」駅徒歩5分（約380m）×野村不動産

百年の誇りを受け継ぐ邸宅地に、新たな邸宅街が誕生します。
「プラウドシーズン御影住吉山手」がお届けするのは、集合住宅を超える合理性と注文住宅を超える快適性、そして心満たすゆとりを備えた新しい邸宅のかたち。
阪急「御影」駅からわずか徒歩5分。心地よい温もりと誇りに満ちた日々が、ここから始まります。

JR神戸線「住吉」駅徒歩15分（約1,200m）｜第一種低層住居専用地域｜延床面積100m²超中心 ※10区画中9区画

「プラウドシーズン御影住吉山手」資料請求受付開始

資料請求・お問い合わせは
0120-010-889　プラウド御影　検索
QRコードで携帯電話・スマートフォンからも資料請求できます。

営業時間／［平日］10:00～17:00［土・日・祝］10:00～18:00　定休日／水・木曜日、第2火曜日

売主 野村不動産

●物件名／プラウドシーズン御影住吉山手●販売予定時期／2020年6月下旬●所在地／兵庫県神戸市東灘区住吉山手二丁目1725-7他（地番）●交通／阪急電鉄阪急神戸線「御影」駅徒歩5分、JR東海道本線（神戸線）「住吉」駅徒歩15分、阪神電鉄阪神本線「御影」駅徒歩20分●用途地域／第一種低層住居専用地域●建築確認番号／第KS119-6110-01572号（2019年9月13日付）他●敷地面積／100.00㎡～138.47㎡●建物延床面積／96.61㎡～123.99㎡※ビルトイン車庫含む（STAGE9、STAGE10）●構造・規模／木造2階建（2×4）●総戸数／10戸●販売戸数／未定●間取り／3LDK～4LDK●完成予定時期／2020年3月下旬●引渡予定時期／2020年9月下旬●販売予定価格／未定●道路／約4.5m、約5m●私道負担／あり 216.97㎡（STAGE1～10の10区画で共有）●施設・設備／大阪ガス株式会社、関西電力株式会社、公共上下水道●売主／野村不動産株式会社/国土交通大臣（13）第1370号、（一社）不動産協会会員、（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟 本社：東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル●施工／株式会社昭和工務店※本物件は一括して販売するか、分割して販売するか未定です。

予告広告　本広告を行い取引を開始するまでは、契約又は予約の申込みに一切応じられません。また、申込順位の確保に関する措置も講じられません。販売予定時期は2020年6月下旬です。

現在、新型コロナウィルス（COVID-19）への感染拡大防止に関する政府の緊急事態宣言、ならびに各自治体からの要請に基づき、営業活動を休止しております。尚、営業活動再開にあたりましては、公式ホームページにておしらせいたしますので、適宜ご確認の程宜しくお願い申し上げます。公式ホームページにおいては、資料請求の受付をいたしますが、各種ご案内や資料の送付は業務再開後とさせていただきます。何卒ご容赦ください。

※掲載の環境写真は2019年12月に撮影したものです。※掲載の完成予想図は計画段階の図面を基に描いたもので実際とは異なります。また、今後変更になる場合があります。なお、外観の細部・設備機器・配管類及び電柱・架線・道路標識・周辺建物等は一部省略または簡略化しております。植栽につきましては特定の季節の状況を表現したものではなく、竣工時には完成予想図程度には成長しておりません。タイルや各種部材につきましては、実物と質感・色等の見え方が異なる場合があります。※電車所要時間は、通勤時（7:00～9:30）、平日日中時（9:31～16:30）に目的駅へ到着する電車の内、2本以上ある最速の所要時間を表示しております。時間帯等により所要時間は異なります。また、乗り換え・待ち時間は含まれておりません。※徒歩分数表示については地図上の概測距離を、80mを1分として算出（端数切り上げ）したものです。予めご了承ください。※掲載の地図は概略図ですので、省略されている道路・施設等があります。